

社会的責任向上のための NPO/NGO ネットワーク

2014 年度 事業報告書

<実施期間>

2014 年 4 月 1 日～2015 年 3 月 31 日

<2014 年度の方針>

(1) 社会的責任向上のための NPO/NGO ネットワーク（以下、本ネットワーク）として、民間非営利セクターをはじめとして、あらゆる組織の SR(社会的責任)向上に向け、NPO/NGO の視点から学習会、啓発事業、情報発信を実施し、SR の普及に努める。

(2) SR の普及啓発活動に、より多くの NPO/NGO が参加することを促進する。特に、地域の会員団体の参加が得られるよう連携強化に取り組む。

(3) SR の普及、啓発に関すること、および「社会的責任に関する円卓会議」（以下、「SR 円卓会議」）について政策提言事業を推進する。

(4) マルチステークホルダーの実践にむけ、東日本大震災後の復興に関する取り組みを含め可能な範囲での助言・側面支援に努める。

<2014 年度の事業報告>

1. 啓発事業

[主旨]

日本における「SR のあるべき姿」の具体化へ向けて、ISO26000 の普及活動や SR 円卓会議での動きの報告・共有を行うとともに、特に、マルチステークホルダープロセス（以下、MSP）等の手法も活用しながら、国内における NPO/NGO の SR の取り組みを広げることにも主眼を置き、より地域に密着した SR の実践事例紹介や、自団体での取り組みを促すための発信・学習機会づくりを提供する。政策提言事業や各会員団体の事業等とも連携し、啓発活動を行う。

[実施報告]

(1) 本ネットワークの政策提言につながる事業の共有、情報提供

ISO26000 の普及活動や地域円卓会議での動きの報告・共有を行い、地域での MSP の活用や SR の実践事例をグッドプラクティスとして積極的に集め紹介した。また、自団体、あるいは地域での SR の取り組みを促す機会を啓発事業として提供した。

a) 「SR フォーラム in “関西” 2014～事例を学び、信頼される団体運営を高めよう！」

日時：2014 年 5 月 16 日（金）15:30-18:00

場所：市民活動スクエア CANVAS 谷町（大阪市中央区）

参加者数：25 人

概要：

【第 1 部（事例発表）】

- ・「学生ボランティア 950 人と一緒につくる NPO のマネジメントとガバナンス」
発表者：能島裕介氏（ブレンヒューマニティ 理事長）
- ・「団体内で進める ISO26000 の取組みについて」
発表者：堀江良彰（AAR Japan 難民を助ける会 専務理事・事務局長）
- ・「NPO の情報開示から SR にとりくむ」
発表者：志場久起氏（わかやま NPO センター 専務理事、
和歌山県 NPO サポートセンター 副センター長）

【第2部 (SR カフェ)】

参加者&登壇者全員で、テーマごとにグループに分かれて、自団体の今後の取組みや課題についてディスカッションをおこなった。

b) 「ISO26000 発行記念 SR セミナー 2014—策定に関わってきたカロリン・シュミット氏をお迎えして」

日時：2014年10月17日(金) 16:00-18:00

場所：日本NPOセンター 会議室(東京都千代田区)

参加者数：28人

概要：

【第1部 (基調講演)】

発表者：カロリン・シュミット氏(米国のNGO「Ecologia」プログラム・ディレクター)
(カロリン・シュミット氏は、ISO26000の策定に中心的に関わられた。)

内容：インドネシアのバリ島で行われた国際オープンフォーラムの報告、ISO26000におけるNGOの役割、ISO26000に関連したビジネスとモラルの共存について

【第2部 (日本のNPO/NGOによるISO26000の取組みの報告)】

発表者：AAR Japan 難民を助ける会

発表者：NPOサポートセンター

(開催報告の詳細：<http://sr-nn.net/archives/3530>)

(2) SRセミナーのコンテンツ・パッケージづくり

これまでに本ネットワークが作成したSRに関するハンドブックを始め、国内外のツールやワークショップなど、主にNPO/NGOのSR推進に活用できるコンテンツの収集・整理に取り組んだ。また、コンテンツの体験会などを開催した。なお、当初計画していた、パッケージやガイドライン作成については、来年度以降に継続的に検討する。

【コンテンツの体験会】

・「人を大切に」ワークショップの開催

日時：2014年12月16日(火) 18:30-20:00

場所：日本NPOセンター 会議室(東京都千代田区)

参加者数：16人

コーディネーター：松岡秀紀氏(アジア・太平洋人権情報センター)

概要：NPOの活動に焦点を当て、活動において生じる「人権」課題を抽出するワークショップを実施。「人権」課題に対して、どのように向き合うのか、グループおよび全体でディスカッションをおこなった。

(3) SRセミナーの開催呼びかけ

本ネットワーク内外へのセミナー開催を呼びかけた。情報発信チームとの連携により、企画協力や講師派遣、出張サポート等の具体的な提案も行った。

【講師派遣内容】

・11月17日 「SR/ISO 26000(社会的責任)普及セミナー ～なぜ、今SRが求められているのか～ (主催：日本規格協会)」

場所：名古屋市中区

派遣講師：黒田かをり(CSOネットワーク)

概要：NPO/NGOによるSR推進の取り組みについてNNネットや会員団体の事例を紹介した。発表資料をもとにセミナー教材「SR導入のすすめ」を作成した。

(4) その他

本ネットワークとして、SRやMSPの概念の啓発につながる社会的な動きをとらえ、時宜を得た事業を柔軟に展開した。具体的には、政策提言チーム等と連携し、地域円卓会議、オリンピック・パラリンピックなどをテーマとしたセミナー等を開催した。詳細については、政策提言の項目に記載。

2. 情報発信・広報事業

〔主旨〕

社会的、国際的にSRへの関心が高まる中で、NPO/NGOの意識向上を図り、行動に移すことは、NPO/NGOが社会的な信頼を獲得し、他セクターと協働するために必須である。そのために、本ネットワークはSRの概念浸透、NPO/NGO間の連携、議論のプラットフォームづくりを目的に情報を発信していく。

「啓発事業」や「政策提言事業」に関する情報を中心に、ウェブサイトやメーリングリストを通じた、タイムリーな発信を行う。また、より強固なネットワーク組織を目指し、会員獲得に努める。

〔実施報告〕

(1) ブックレットを活用した啓発活動

主催・共催・後援イベント会場にて、ブックレット『策定に関わったNPOが読み解くISO26000』および『これからのSR—社会的責任から社会的信頼へ』の頒布を行い、NPOを中心に様々なセクターに計32部を届けた。

(2) NPO/NGO向け情報発信の強化

メーリングリスト、ウェブサイト、Facebook、Twitterなどを効果的に活用し、各種セミナーや幹事会の開催予定・報告などを発信した。ウェブサイトでは幹事会報告を毎回会議開催後1週間以内に公開し、会員および入会を検討している団体への情報共有に努めた。また、2013年8月より開始した、社会的な出来事やSRに関する様々な話題を取り上げる「NNネットコラム」のウェブサイトへの掲載については、従来の幹事団体による投稿のほか、ISO26000の元エキスパートの熊谷謙一氏(日本ILO協議会)にも寄稿いただいた(2014年10月28日掲載)。

(3) 他セクター向け情報発信の強化

NNネットウェブサイト、Facebook、Twitterでの情報公開のほか、イベントサイトなどへの活用を通して他セクターにも積極的に情報発信を行った。各セミナーにはNPO関係者だけでなく、企業や地方行政などからも多くの参加を得られた。

3. 政策提言事業

〔主旨〕

社会的責任に関わる国際規格ISO26000発行およびJIS化を受けて国内の普及、啓発に関すること、日本国内の動きとしての「社会的責任に関する円卓会議」の2つに絞った形で政策提言事

業を推進する。関連する会議に、本ネットワークの代表協議者を派遣し、その内容を広く本ネットワーク会員をはじめとする NPO/NGO 関係者と共有する。

[実施報告]

(1) ISO26000 発行後の情報共有など

ISO26000 の発行 3 年後の見直しと改正の有無を問われる投票のために 2013 年度に再結成された「ISO/SR 幹事会」の NGO 委員に NN ネット代表協議者（黒田、堀江）が参加し、ISO26000 の活用方法や、普及に関して他のステークホルダーの委員らと情報共有や意見交換を行った。

(ISO/SR 幹事会開催日 5 月 22 日、9 月 10 日、2015 年 3 月 2 日)

また、黒田は ISO/SR 幹事会の中に発足した ISO26000/SR 普及委員会の委員を務めたほか、ISO26000 の発行後の組織 (PPO: Post Publication Organization) の NGO ステークホルダーグループの准メンバーを務めた。

持続可能な調達に関する国内検討 WG (ISO/PC277) が発足し、NGO 委員に黒田と堀江が NN ネット代表協議者として就任した。同 WG は、10 月 24 日および 2015 年 3 月 2 日に開催された。

(2) ISO26000 の普及をめざし、イベント、セミナーを開催

啓発チームと連携して ISO26000 の普及のためのイベント、セミナーを開催した。これらのイベントには NPO/NGO 関係者だけでなく、ISO26000 の元起草委員や、企業、自治体からも参加してもらいなど、他セクターからの協力も仰いだ。

企画名：

「SR と 2020 東京オリンピック・パラリンピック勉強会」

日時：2014 年 9 月 16 日（火）18:30-20:30

場所：日本 NPO センター 会議室（東京都千代田区）

参加者数：32 人

概要：

世界中の注目を集める大イベントが環境や人権などに配慮した社会的責任を果たすものになるように各方面に働きかけをすると同時に、SR を社会に浸透させる機会として、関係者と意見交換を行った。

登壇者：

黒田かをり（CSO ネットワーク）

和田征樹氏（東京オリンピックイントランスペアレンシー） 他

以下のイベント・セミナーの詳細は、「1. 啓発事業」を参照。

・「SR フォーラム in “関西” 2014～事例を学び、信頼される団体運営を高めよう！」（2014 年 5 月 16 日開催）

・「ISO26000 発行記念 SR セミナー2014—策定に関わってきたカロリン・シュミット氏をお迎えして」

（2014 年 10 月 17 日開催）

(3) 国際会議への参加

10 月 7 日～8 日、バリ（インドネシア）で開催された ISO26000 国際オープンフォーラムに黒田が NN ネットより参加、パネルでステークホルダー・エンゲージメントとコミュニティ参画・発展における NPO の役割等について日本の事例をもとに話をしたほか、ISO26000 の普及、活用に関する議論に参加した。

(4) 社会的責任に関する円卓会議（以下、SR 円卓会議）への参画と推進

[主旨]

SR 円卓会議に本ネットワークの代表協議者（田尻、川北、横田、岩附、田村、黒田等）が委員として参加すると同時に、NPO/NGO ステークホルダー間で意見交換を行い、積極的な提案につなげる。また、2011年に策定した協働戦略に基づく、ワーキンググループの活動においても引き続き参画し、より NPO/NGO ステークホルダー間で意見交換を行い、積極的な提案につなげる。

[実施報告]

SR 円卓会議運営委員会への参画

- ・4月15日（火）14:30-15:30 第32回運営委員会の実施
- ・6月11日（水）11:00-12:00 第33回運営委員会の実施
- ・2015年3月06日（木）16:30-18:00 第34回運営委員会の実施

消費者グループからの相談により、SR 円卓会議 NPO/NGO グループと消費者グループが協力して、8月28日に「消費者庁主催の消費者グループフォーラムキックオフ会議」を実施。会員団体であるさわやか福祉財団にも情報提供を受けた。（黒田、星野（智）、堀江、横田が運営参加）

(5) 地域円卓会議

[主旨]

NN ネット幹事団体が主査を務めた、SR 円卓会議の「持続可能な地域づくりワーキンググループ」からの提案を端緒として全国に広がりつつある「地域円卓会議」を深めるため、各地で実施する組織間の情報交換、ならびにノウハウ供与の場を設けることを通じて、マルチステークホルダープロセスを促進する。

[実施報告]

2014年2月にNN ネット主催で開催した「地域円卓会議フォーラム」の続編を、2014年11月に市民セクター全国会議のセミナーの1つとして開催。地域円卓会議を先駆的に導入している2地域のその後の進化について共有し、今後の課題を議論した。

企画：「進化する地域円卓会議 2014」

日時：2014年11月22日（土）09:30-12:00

場所：中野コンgresクエア（東京都中野区）

参加者数：30人

概要：

小阪 亘氏（公益財団法人 みらいファンド沖縄 代表理事）

板持 周治氏（雲南市役所政策企画部地域振興課 統括主幹）

進行：

川北 秀人（IIHOE [人と組織と地球のための国際研究所] 代表）

（社会的責任向上のためのNPO/NGO ネットワーク 幹事団体）

（開催報告の詳細：<http://sr-nn.net/archives/3186>）

<2014年度 組織運営（事務局業務）報告>

1. 会議等の業務

(1) 第7回 通常総会の開催

日 時：2014年5月16日（金）13：30～15：00
会 場：大阪ボランティア協会 CANVAS 谷町 会議室
議 題：

- ・2013年度事業報告・決算の承認
- ・2014年度事業計画・予算の承認
- ・幹事団体の選出について
- ・監事の選出について
- ・その他

(2) 幹事会の開催

- ・第69回幹事会 2014年4月15日（火） 場所：日本NPOセンター
- ・第70回幹事会 2014年5月13日（火） 場所：日本NPOセンター
- ・第71回幹事会 2014年6月17日（火） 場所：日本NPOセンター
- ・第72回幹事会 2014年7月22日（火） 場所：日本NPOセンター
- ・第73回幹事会 2014年8月19日（火） 場所：日本NPOセンター
- ・第74回幹事会 2014年9月16日（火） 場所：日本NPOセンター
- ・第75回幹事会 2014年10月21日（火） 場所：日本NPOセンター
- ・第76回幹事会 2014年11月18日（火） 場所：日本NPOセンター
- ・第77回幹事会 2014年12月16日（火） 場所：日本NPOセンター
- ・第78回幹事会 2015年1月20日（火） 場所：日本NPOセンター
- ・第79回幹事会 2015年2月17日（火） 場所：AAR Japan 難民を助ける会
- ・第80回幹事会 2015年3月17日（火） 場所：日本NPOセンター

2. 会員に対する業務

(1) 会員へのフォローアップ

- ・会員の入会、継続、休会等に伴う業務を行った。
- ・会員メーリングリストの運営と管理を行った。
- ・会員に対して、幹事会終了後、幹事会議事概要および次回幹事会日程をメーリングリストへ配信した。

(2) 会員データベース管理

- ・会員情報の整理と管理を行った。

3. 経理等の業務

(1) 日常的な会計

- ・円滑な業務執行を行うために、現金等の動きについて記録し、資金の動きを明確にした。

4. 総務関連の業務

(1) ウェブサイト管理・運営に関する業務

- ・新サイトの管理・運営を行った。

(2) 什器備品等の管理

- ・什器備品の発注や管理等についての業務を行った。

5. その他

- ・インターンの業務内容、受け入れ体制などを再検討し、定期的に事務局業務をサポートするインターンを募集については次年度の検討事項とした)
- ・日本 NPO センターが事務局を担った。
- ・全体の進行を取りまとめる議長団、副議長団の立候補を募り、各回の幹事会をまたいでも円滑かつ効率的な全体把握と進行ができる体制を試験的に採用した。

以上